

様式第2号（第5条関係）

平成26年9月1日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

土井道子



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成26年7月26日 ～ 平成26年7月28日まで
- 2 旅行先 東京都
- 3 目的 「市民と議員の条例づくり会議2014」 出席のため
- 4 関係書類 別紙のとおり



研修会	市民と議員の条例づくり交流会議 2014（第14回） 議会で未来をつくれるか1？
日 時	平成26年7月26日（土）～7月28日（月）
会 場	東京都千代田区 法政大学市ヶ谷キャンパス
内 容	7月26～27日 全国自治体議会の運営に関する実態調査 2014 概要報告 長野基氏（首都大学東京） 報告内容 第1部 議会改革及び議会の状況 ① 議会基本条例の制定・評価・改正 2013年中では147議会が基本条例を制定 議会基本条例の「改正」 205議会のうち13%が改正を経験その主なのが政務調査費から政務活動費と修正（75.1%） ② 地方自治法改正の対応 改正地方自治法に基づく通年制を条例で制定：1.1%（17議会） ③ 議会への市民参加 議会として市民と直接対話する機会：45・1%（714議会） ④ 議会における議員間討議 実施を定める規定と実施実績 27.8%（440議会）が会議規則・条例で議員間の自由討議を規定 これは割合を見ると増になっている ⑤ 議会による情報公開 議案に対する各議員の賛否：41・3%（653議会） 大きく伸びている ⑥ 会議状況のインターネット上の発信 利用議会：21.1% 全体の2割が使われている 自律自治体の構築と自治・議会・計画の3条例 神原勝（北海学園大学名誉教授） 総合計画の手法を革新・条例化し、その総合計画に正面から向き合わなければ、議会の政策能力は高まらない。3条例（自治基本条例・議会基本条例・総合計画条例）をそろえた自治体は少ないが、政策先駆議会が登場する事によって議会間格差が拡大する。

	7月28日（月） ・町村会館で財政について研修後、衆議院、参議院の両会館を訪問 会館の警備は厳重であったが、入館後は地下の売店に立ち寄り、歴代首相の似顔絵がついたメモ帳を購入した。 ・アカデミーヒルズ六本木訪問 通称六本木ヒルズと呼ばれるビルの49階に設置されている民間の有料図書館。1日の利用料は2,000円で、会員登録すると月額9,000円で朝から夜11時まで元日も利用できる。 人”や“本”を通して、最新の情報や知識に出会う場と機会を提供。人が集まり、知性を磨き、交流・つながることで、常に新たな価値が創造される「知の拠点」である。 アカデミーヒルズでの閲覧室の雰囲気、パソコンが持ち込め、読書ができ、飲食もできて現在日本の図書館の置かれている環境よりも数段利用者に親しまれる施設となっている。 蔵書は、多分野にわたってジャンルの中には刊行年の古い書籍もあり書店では入手できないものなので、収集サービスがいきわたっている。 また、蔵書のほかに話題の新刊書も並べて、その場で購入することもできるので、現代の書籍流通の不便さから見れば利便性のあるサービスである。
感想	南は北海道から九州までの参加者議員、学生、住民などが一堂に介し、町づくりを話し合ったことはそれぞれの視点が興味深く参考になった。協議過程で一市民の自治体に対する意見が激しい中にも町をよくしていきたいという心意気が伝わり栗山町でも町民の建設的な意見をもとに議会を町民のものにしていくという考え方の重要性を認識した。

視 察	衆議院、参議院の両会館を訪問
日 時	平成26年7月28日（月）
会 場	東京都千代田区 参議院会館・衆議院会館
内 容	7月28日（月） ・町村会館で財政について講義を受けた。 のち、新衆議院会館、新参議院会館の両会館を訪問した。 議員会館とは、国会議員の東京事務所に当たるビルである。 会館の入場は、警備が厳重であった。別紙のような面会申込書に記入してから、飛行機に乗り込むような検査（金属探知機）をして、入館できた。 北海道出身の稲津久議員、渡辺孝一議員事務所を訪問し、議員とは面会できなかったが、事務所の関係者と 帰りに地下の売店に立ち寄り、議員関係の書物等を購入した。
感 想	町村会館での財政の講義は、未知の分野だったので論理的な説明は、今後の決算・予算を理解するのに役立つと思った。 議員会館では、安倍首相や閣僚の名前を確認し、国の政治関係者の名前を目の当たりにしたことで、テレビ中継の国会の様子を知る上でも参考になった。

見学	東京都港区六本木 アカデミーヒルズ会員制ライブラリー 六本木ライブラリー (事務局 六本木ヒルズ森タワー 49 階)
日 時	平成26年7月28日(月) 午後2時
内 容	アカデミーヒルズのライブラリーは、書籍やデジタル情報から人間の頭の中にある知識までを「コンテンツ」として捉える、これまでの図書館の概念を超えた、日本にはなかった図書館である。 1日の利用料は2,000円で、会員登録すると月額9,000円で朝から夜11時まで元日も利用できる。 下記の通りのサービス内容となっている。 ① 目的に合わせて使い分ける空間と施設 仕事や勉強をサポートし新しい出会いや交流、イノベーションを生む様々な空間やWi-Fiや電源を備えている。 ② 朝7時から夜24時までの長時間営業 ③ 新刊本を中心に揃える本のセレクトショップ 書店と同じように毎日新刊が入荷している。 多分野にわたってジャンルの中には刊行年の古い書籍もあり、通常の書店では入手できないものもあり、収集サービスがいきわたっている。 ④ 書籍の並べ方 個のライブラリー独自の検索システムで、自宅からでも書籍の検索ができる。 ⑤ 蔵書を販売 貸出しはしないので定価の10%引きで販売をする ⑥ 飲食をしながら利用が可能 カフェやラウンジでは、アルコールを含む飲食が自由である。 ⑦ ネットワークを広げる場を提供 人”や“本”を通して、最新の情報や知識に出会う場と機会を提供。人が集まり、知性を磨き、交流・つながることで、常に新たな価値が創造される「知の拠点」である。
感 想	アカデミーヒルズのライブラリーは、民間の有料図書館なので最初の館内説明は無料であるが、図書館利用は、会員でないので2千円を支払って広めの一人用ソファに座って、ラウンジ等で読書を楽しめた。 49階から眺める景色には、スカイツリーがそびえていた。 このような雰囲気、利用者各々が憩いやすく、個人や団体がコミュニケーションの場としても気軽に集まりやすい拠点になるのではと思い、見学したことが非常に役に立った。